



おおさか

会長所感

会長 佐藤啓一

昨今は年賀状終いをする人が増えているが、私の場合、かなり減ったとは言え未だ続いている。その中の幼馴染の一人は、前年の出来事を連ねたあと、“〇〇は宝です”という言葉を書いてくる。その年の出来事をもとに何を大切なもの、宝と感じたか、何に心を動かされたかを書いてくるのであるが、今年は“出会いは宝であり生きる活力です”と記されていた。ここでの出会いとは、必ずしも新しい人やものごとを指すものではなく、従来から関わりがある人やものとの新たな出来事も含まれている。彼女は何事に対しても小さなことでも一役買って取組むが、それが宝になるのであろう。



FF について言えば、これまでも“FF との出会いは宝です”という意味合いの言葉を耳にしたが、FF との出会い、FF 活動を通じての出会いによって宝を得る人が今年増えることを期待している。そのために、機会づくり、場づくり、情報共有を進めたいと考えている。

機会や場があっても宝を得るか否か、宝と感ずるか否かは一人一人の関与と感覚（宝と感ずる肌感覚）に委ねられているが、それを考える縁（よすが）として、前回転載した“活動の意義、今後を訴える FFI の理事からのメッセージ”を再度転載する。

「私たちの仕事は政治的なものではない。個人的なものです。それは人間です。顔と顔、心と心で会い、以前には存在しなかったかもしれない理解を築くことです。（中略）対立があっても々を結びつけるために存在しています。政府だけでなく個人が平和をもたらし、文化的・政治的な分断を越える架け橋を築くことができるという、市民外交の力を深く信じていました。（中略）今こそ、私たちの使命に身を委ねる時です。私たちの家を開き続け、私たちの生活を分かち合い、友情の手を差し伸べ続けることです。このようにして理解が深まっていきます。これが平和の始まりです。」

2026 年総会及び新年会

2026 年度の総会および新年会は、1 月 18 日（日）、大阪市北区曾根崎の「がんこ寿司曾根崎本店」で開催されました。出席会員は 18 名、ほかに委任状が 10 名から提出されました。新年を祝つての懇親会から始まり和やかな雰囲気です総会に移りました。総会は三枝さんの司会で進行、議長に長谷部純子さんを選び議事に入りました。

まず 1 号議案として、前年度の活動報告、会計報告、監査報告が審議され、原案通り承認された後、2 号議案として、2026 年度の委員会体制の提案があり、8 名の委員（顧問含む）の継続就任、2 名の旧委員の退任、また新たに宗廣はつ子さん、佐々木智子さんの委員就任が承認されました。会長には引き続き佐藤啓一さんが就任されました。

続いて 3 号議案、2026 年度活動計画および予算案について審議され、原案通り承認されました。

本議案に関連し、今年度の年会費は、改訂された前年度の額を据え置き、前年同様大阪クラブの年会費と FFI の年会費を一括して徴収することが了解されました。

また報告事項として、中部ブロック会議(奈良クラブ主催)、FFJ 代表者会議(リモート)の様、および昨年2回実施されたクラブ内交流について報告されました。(金山事務局)



2026年委員会体制

No.	役職	名 前	2026年担当役割
1	会 長	佐 薙 啓一	統括
2	副会長	岩 田 幸子	会長補佐
3	会 計	菅 原 誠子	会計業務
4	事務局 長	金 山 忠夫	事務局業務
5	委 員	長 谷 部 純子	催事業務
6	委 員	西 田 直美	広報業務
7	委 員	三 枝 恵子	広報業務
8	委 員	※宗 廣 はつ子	催事業務
9	委 員	※佐 々 木 智子	催事業務
10	顧 問	池 田 政綱	
	会計監査	長 谷 部 純子	



委員の皆さん

左表名前欄の※印は、新任委員

新委員挨拶

宗廣はつ子さん 今回、委員をする事になりました。FF大阪クラブに入会して12年になります。会の運営も大分わかって来ましたが、これからのクラブの発展の一助になればと思っています。すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、自宅が広島にありますので月に一度は行っております。委員会にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



佐々木智子さん この度、役員を拝任致しました佐々木智子です。長男をギランバレー症候群で亡くし前を向こうと奮い立って入会したのも束の間、コロナ禍のために活動停止となりましたので、実質の活動はほんの4年ほどです。至らない所が多々あるかとは思いますが、皆様のご協力の元、少しでも盛り上がり、楽しめるよう、できる限りの事はさせて頂くつもりです。どうぞ宜しくお願いいたします。



2026年の取り組み

昨年は渡航がなく、やや低調な活動となりましたが、2026年は受入れ、渡航を始め様々な活動を計画しています。幾つかご紹介します。この他クラブ内交流を適宜企画します。

- ・4月1日～7日 台湾新竹クラブ受入れ
- ・4月13日～15日 アメリカ、セントラルノースカロライナクラブ受入れ
- ・6月27日 中部ブロック会議(愛知クラブ主催、開催地：名古屋)
- ・10月24日 日本大会(長崎クラブ主催、開催地：長崎)
- ・11月(日程未定) オーストラリア、マウントバーカー渡航
- ・11月23日 総合フェスタ
- ・12月20日 忘年会

2026年台湾・新竹受入れ

あと2ヵ月足らずで台湾・新竹クラブから13名のアンバサダーが来訪されます。2024年11月に訪れた際には盛り沢山のプログラムや心配りによって、新しい出会い、発見があり、心に残る交流をさせて貰いました。今回はそのお返しです。13名全てがステイ相手ではありませんが、旧交を温めたり、新しい出会いを得たりする良い機会です。正式な国交を閉じて54年経っても色々なレベルや分野で交流が続いており、同じ価値観を共有している為に経済的な繋がりだけでなく、文化面での交流も発展しています。これが8割近くの人が最も好きな国として日本を上げるほど親日的であることに繋がっているのだと思います。私達FFの交流は市民レベルによる文化面での交流と言えますが、新しい出会い、繋がり強化に役立つ交流になることを願っています。(HC佐藤啓一・記)

新竹



2024年の渡航者から見た「新竹はこんなところ」

新竹は台北から台湾高速鉄道で約半時間の西海岸に位置し、大都市台北と比べてゆったりとした時間が流れる台湾北部で最も古い都市です。一方都市部にはサイエンスパークがありIT業界で世界をリードするTSMCをはじめ科学と技術の中心地として急成長中です。

新竹クラブは2013年台湾で4番目に設立された若いクラブとして日本のクラブとの交流も活発です。一昨年の渡航では綿密なスケジュールで大変温かいもてなしを受けました。(池田政綱・記)



新竹市は、日本の統治時代に形作られた古い街並みとハイテク産業が調和したとても魅力的な都市でした。TSMCの本社が置かれ、IT関連企業が集中する企業城下町で「台湾のシリコンバレー」とも呼ばれています。

私達のホストもTSMCの技術者、家は郊外の瀟洒な家が並ぶTSMCの分譲地の一面にありました。街の中心には、日本統治時代に建てられた古い建物が今なお残り歴史的な雰囲気を感じさせます。とりわけ、新竹駅は、台湾で最も古い駅で、同じ頃に建てられた東京駅とは兄弟駅になっています。食べ物では、新竹ビーフンが特産。日本のスーパーでも売られていて、時折懐かしさを感じながら食べている。(金山忠夫・記)



2025年 忘年会

2025年12月21日、大阪梅田の中華料理店ロドスにて FFO の忘年会を開催しました。当日は21名が参加、おいしい中華料理とフリードリンクを楽しんだ後は、1分間トークタイムへ。今年を振り返る「漢字一文字」をそれぞれ披露してもらい、思わず笑ってしまう話や、驚きのエピソードまで飛び出し、会場は大いに盛り上がりました。歩、知、断、快、続、越、楽、転、等々思い思いの一字で表現する一年を改めて振り返りながら、メンバー同士の距離がさらに縮まる、楽しい締め括りとなりました。(三枝恵子・記)



クラブ内交流

神戸市東部副都心 ハット神戸

5月10日、午前中の小雨の中、13名の参加者のもと神戸市のHT神戸で交流会を実施しました。初めに訪問した「人と防災未来センター」では、1995年、31年前の1月17日午前5時46分に兵庫県淡路島北部を震源とするM7.3の大地震の記憶を辿り、天災の威力と恐ろしさを映像や体験話、当時の資料等で改めて実感しました。続いて「兵庫県立美術館」では、学芸員の方が、作品の見方やどのように感じたら良いのか等、丁寧に解説をしてくださいました。その後常設展示室を鑑賞し、作品や展示からそれぞれの時代背景や文化に思いを馳せながら至福の時間をそれぞれに過ごした。昼食はJICA レストランにて、各国の特色ある料理をお手ごろな値段で味わいながら国際的な交流の温かみを参加者と感じ合うことが出来ました。

神戸は、異文化の多くが集まる町ですが、観光として外国の方を案内するのはなかなか難しい町です。我々日本人が、知識として知るには今回の企画は良かったのではないかと思います。

(長谷部純子・記)



京都迎賓館、仙洞御所

10月18日、17名が参加。ガイド付きツアーとして入母屋造りの正面玄関から京都迎賓館へ入った。京都迎賓館は、海外からの賓客を迎える国の正式な迎賓施設で、建物や調度品には日本最高の伝統的技能が駆使され、和風美の最高水準にあると言われている。

大きな池を囲むようにして並ぶ「夕映えの間」「藤の間」そして「桐の間」。どの部屋もまるで芸術品のようだ。壁面を飾る月光の比叡山と夕陽の愛宕山の大きなつづれ織りが印象的だ。和食の晩餐会を催す「桐の間」は畳敷き。国の賓客を和のこころでもてなす晩餐会の様子が目に浮かぶ。

昼食は、ガーデンパレスホテルで京風懐石弁当を賞味。午後は再び御苑へ戻り仙洞御所へ。

仙洞御所は、天皇を退かれた歴代の上皇の住い。その庭園は、元来小堀遠州の作とされている。深い森やいくつもの橋、丸石が敷き詰められ浜等変化にとんだ庭園を巡りながら深まり行く秋の一日を楽しんだ。(金山忠夫・記)



総合フェスタ 2025

11月23日、大阪市立総合生涯学習センターで「総合フェスタ 2025」が開催されました。「フェスタ」は日頃、同センターを利用しているグループがその活動の成果を発表する場です。

FF 大阪の出展は既に10回目、今年も「友情の輪を世界に広げよう（大人のホームステイ）」というテーマで、渡航や受け入れの写真を壁に一杯貼って、FF活動の魅力や楽しさをPRしました。

私達の説明に熱心に耳を傾けてくださる方もいて、新規の入会に繋がっていただくと願っています。FFのクラブがある約60ヶ国の国旗から国名を当てる「国旗当てクイズ」は、子供たちに大人気。国旗をいっぱい知っている子が例年よりも多く、聞いてみると万博で覚えたとのことでした。お蔭でお菓子の景品はあっという間になくなりました。(金山忠夫・記)



クラブ内交流についてのアンケート集約(抜粋)

クラブ内交流は、受入れ、渡航に続く大切なイベントですが、より多くの会員が参加する充実した内容とするため、昨年8月アンケートを実施し、22名の会員から回答をいただきました。(複数回答)

A項目 (目的に関する質問)	回答数	%	C項目 (内容に関する希望)	回答数	%
①会員間の親睦の醸成	22	76	①食事会	12	19
②知識、技術の習得	6	21	②英語等外国語に触れ合う機会	11	17
③その他	1	3	③観光	10	16
B項目 (開催頻度に関する希望)	回答数	%	④知らない知識の習得	10	16
①月1回	1	4	⑥博物館、美術館の見学	9	14
②2カ月に1回	4	18	⑦寺社、仏閣などの訪問	6	9
③3カ月に1回	8	35	⑧観劇、音楽鑑賞	4	6
④6カ月に1回	10	43	⑧その他 (1泊旅行、カラオケ)	2	3

マウントバーカー渡航へのご案内 AC 西田直美

11月に予定しているマウントバーカー渡航のAC西田です。
マウントバーカーは、オーストラリア・サウスオーストラリア州の州都
アデレードから車で約1時間、マウントバーカーという山(標高360m)の
麓に広がる町です。人口は約25,000人。自然が豊かで美しく、コアラ
やカンガルーはじめ沢山の野生生物にも出会えます。ワイナリーが連なり、
ワインもまたカンガルーの肉もおいしくいただけます。
オーストラリアへの渡航はタスマニアのホバート以来8年振りです。
アンバサダーとしての参加をお待ちしています。(西田直美・記)



私にとっての関西万博 —こんな体験—

西田 直美さん ~日本館のホスト役として勤務~

万博が終了して早4カ月、準備期間も含めて約9カ月間、日本館で働いていました。主な業務はVIP来館時の館内誘導でした。

一番印象に残ったお客様は開幕後初のナショナルデーで来館された

トルクメニスタンの大統領です。パピリオンの入口にばーんと掲げられていたお写真そのままの方でした。

期間中は様々な国の文化に触れ、又日本の素晴らしい文化も再認識しました。国境を越えた交流はFFとも共通したものがあり、お互いを知ることが平和な世界への第一歩なのだと改めて感じる事が出来た有意義な半年間でした。



藤田 美加子さん ~184日間のうち35回!~

開催184日間のうち35回来場し、場内外ボランティアも体験したガチ万博勢でした。まず大屋根リングに度肝を抜かれました。木製のコロッセオのような建造物。橋梁やトンネルなど大規模公共事業が減った昨今において日本技術の粋を結集したひさびさの大規模公共事業で日本技術のまさにレガシーでした。その他、国家企業が全力を尽くしたイタリア館やフランス館、アイデアで入場者の満足を勝ち得たヨルダン館やインドネシア館、まったく意味がわからないまま感動するNu12や毎晩開催されるドローンショーなど本当に素晴らしい半年間でした。8月13日のメトロ停電によるオールナイト万博も味わい、メタンガスやユスリカなど不安視されたこともありましたが、無事大きな事故もなく終了できたのはまぎれもなく日本のチカラだとおもいました。



編集後記

FF大阪のNL第1号が発刊されたのは、2001年1月、単一色のコピー印刷だった。2005年からカラー導入。以来20年余り、記念すべき第80号の編集に携わることが出来て喜ばしい。(T.K.)

編集発行 フレンドシップフォース 大阪クラブ
発行日 2026年2月10日 第80号
事務局 〒573-0032 枚方市岡東町1-10
金山忠夫 kanayama573@gaia.eonet.ne.jp
H.P. <http://ffosakaclub.jp/>
編集人 佐薙、金山、西田、三枝